

梅花貝
蘇芳貝

〔貝盡浦之錦^上〕梅花介^{左二}

蛤類 白くつやなし横に細く筋立なり、介のなり、梅花の一瓣落たるごとし^{○下}

〔飾抄^下〕心葉

平治或秘記曰、心葉梅枝三寸許也、予金枝付梅花貝、今來以續飯爲藥、或銀枝付同貝、若蘇芳貝、或

用銀、^{○下}

〔散木弃詞集^九〕^雜亥りたる人のもとより、梅花貝といふ物やあるとたづねたりければ、つかはずとてよめる、

春風になどやおりけんみちのくのまかきが島の梅の花貝

櫻貝

〔貝盡浦之錦^上〕櫻介^{右二}

蚌類 此介前に辨せしごとく、あぶみ介を櫻介と名付入る、恐らくは誤なるべし、櫻介は薄く赤き介也、

〔前大納言公任卿集〕夜一よたうとき事き、あかして、曉がたにみれば、よる散ける花の、やり水の浪によせられて、すはうがひのさまなるに、櫻がひとは、是をやなどいひて、

よもすがら散ける花を朝ぼらけあかしの濱のかひかとぞみる、

〔廻國雜記〕櫻井の濱といへる所にて、櫻貝をひろふとて、

春はさぞ花おもえろく櫻井の濱にぞ拾ふおなじ名の貝

〔和漢三才圖會^{四十七}〕阿座蛤^{介貝} 正字未詳

爲鹽鉢

石ワリ貝

〔大和本草^十〕^四石ワリ貝 筑紫ノ海濱石中ニアリ、ワリテトル、色淡白ナリ、大サ魁蛤ノ如シ、殻厚